

2020年度・2021年度  
地層処分事業に係る社会的側面に関する研究支援事業Ⅱ  
第6回 運営委員会 議事録

【日時】 2022年2月17日(木) 13:00～14:00

【実施方法】 Web会議

【出席者】(順不同、敬称略)

○委員長

原田 久 (立教大学 法学部 教授)

○委員

齊藤 誠 (名古屋大学大学院 経済学研究科 社会経済システム専攻 教授)

勢一 智子 (西南学院大学 法学部 教授)

高橋 信 (東北大学大学院 工学研究科 技術社会システム専攻 教授)

枋山 修 (公益財団法人原子力安全研究協会 技術顧問)

○オブザーバ

松野 尚哉 (経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課係長)

大貫 智弘 (原子力発電環境整備機構 事業計画部長)

大野 裕行 (原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループマネージャー)

佐治 祐輔 (原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ課長代理)

青池 彰紘 (原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ課長代理)

仁戸部真生 (原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ)

○運営事務局

【議題】

- 1 成果報告会について
- 2 本事業の振り返り

【資料】

- ・ 議事次第
- ・ 委員名簿
- ・ 資料1 成果報告会について

【議事概要】

1. 成果報告会について

- 委員長より、開会の挨拶が行われた。
- 運営事務局より、資料1に基づき成果報告会について説明があった。

2. 本事業の振り返り

- 本事業の振り返りについて意見交換がなされた。
- 委員より以下のコメントがあった。
  - ✓ 今回の支援事業においては、前回事業を踏まえて支援期間や進捗のプロセス管理等を見直したことにより、研究の更なる進展や研究の裾野の拡がりなど改善された点は多かった。今回の成果と課題を踏まえて、次回の事業の改善につなげてほしい。
  - ✓ 採択の段階で、原子力発電環境整備機構 (NUMO) が社会的な側面の研究支援を実施している理由や意図などについて研究者に詳しく説明する機会があってもよかった。

- ✓ 今回の研究支援期間中にわが国で初めて文献調査が始まったことから、国や NUMO から研究者への地層処分事業の進展等に関する情報提供があってもよかったかもしれない。
- ✓ 文系の研究で共同研究の形として新たに始める場合、学会報告や論文発表まで行うには、研究支援期間の1年半は少し短かったかもしれない。
- ✓ 研究成果を学会で発表してもらい、あるいは社会に対して広く発信してもらうことが本支援事業での重要なミッションであるが、支援事業終了後でも研究者には積極的な発信をお願いしたい。
- ✓ 今後、国内の他の研究支援の仕組みも参考に、NUMO の事業で支援したことのある研究者が社会的側面に関する研究を継続的に深めることができる仕組みと新たな研究者をこの分野に迎え入れて裾野を拓げる仕組みについて検討するとよい。

以上